

明けましておめでとうございます

年末に起きたカルロスゴーン氏のレバノンへの逃走劇のニュースを聞いて常識にとらわれていると想定外のことが容易に起きることを実感しました。15億円もの保釈金に加え日本の厳しい出入国管理体制を考えると、よもや国外脱出を企てることはないだろうという思い込みが見事に裏切られたからです。

また昨年暮れ、2019年に生まれた赤ちゃんの数が予想より2年早く90万人を割り込み86.4万人で終わるというニュースにショックを受けました。将来人口は確実に予測できるため、生まれてくる子どもの数も予想どおりになると考えていたからです。2001年生まれの子が117.1万人だったことからこの間に31万人弱減少したことになります。将来の大学進学率が今年の54.7%から60%にアップすると仮定しても18年後の大学進学者数は現状より10万人以上減少することになるのです。

一方、AI時代を支える情報分野で5Gが登場し技術革新のスピードが益々速くなることが予想されています。地球環境では大規模な山火事や世界中で頻発する風水害に象徴される地球温暖化問題が顕在化しています。また本日の日経ビジネス電子版は世界中が自国第一主義の傾向を強め米中貿易摩擦の長期化やイランとアメリカの関係悪化、ブレグジットなどの政治問題が山積し「来年のことさえ定かではない」不確実な時代になると予想しています。このような情報過多の時代には目の前にある情報は本当に真実なのか？思い込みを無くして疑い、多面的な情報を集めてフェイクニュースに惑わされない自ら考え行動できる人材であることが求められます。今回は自ら考え行動できる人材の第一歩となる多様な視点からの考え方を伝授する荻谷剛彦著「知的複眼思考法」(講談社)を紹介します。複眼思考により情報リテラシーを格段に高めることができ考える力がつくと言っています。

西日本工業大学は自立できる人材の育成に重点を置き「選ばれる大学」の実現に向け地道に取り組んでいます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

日本は世界から取り残される！？

NHKニュース(1月14日)のビジネス特集で、ラスベガスで開かれている最新テクノロジー見本市(CES2020)が表記ヘッドラインで取り上げられました。参加企業4,500社のうち中国企業が1,000社、韓国が300社、フランスが250社出展しているのに対し日本は70社しか参加していないことが報道されました。その中でアメリカの投資家ワイシスク氏が「日本から出展された製品に突出して魅力的なものはなかった」と語っています。また日本はこれまで技術に焦点を当ててきたが、スタートアップ企業がグローバル展開して規模を大きくするには、(1)市場に合った製品をタイムリーに投入するマーケティング力 (2) どのような課題を解決できるのかを一言で説明できるプレゼンテーション能力 (3) リスクを恐れない力強い起業家精神という全く違うスキルが必要だと指摘していました。

私はこのニュースを見て、世界から取り残されないためには多様性が重要なカギを握っていると感じました。世界では今何が必要とされているのかを知り、自ら開発した製品がそれに応えられると一言で伝えるには、異文化交流の実体験がないと無理だと直感したからです。島国の日本で異文化を理解するのは至難の業です。日本人は今でも「性能が良くて安価なものは売れる」という神話を信じているのではないのでしょうか。また失敗しても再チャレンジできる実態を見るのが少ない日本では起業家精神は育ちにくいと思います。

21世紀に入り世界は機能性や効率を優先するアプローチから性別、国籍、宗教などを越えて人間を幸福にするという切り口が変わってきています。シリコンバレーで従来の理数系を重視したSTEM教育にARTを加え創造力を育み共感を大切にSTEAM教育へと進化したのもそのためだと思います。昨今、ビジットジャパンの取り組みやLCCの伸長で外国人観光客が増えていることに加え「トビタテ！留学JAPAN」の充実などで外国への壁は低くなったと感じています。若い皆さんが積極的に海外に出かけて異文化を体験し多様な考えや価値観を共有できる人材になることが将来の日本企業を創造する近道だと信じています。